

第三セクター等経営健全化方針

この方針は相当程度の財政的なリスクが存在する第三セクター等と関係を有する地方公共団体が、当該第三セクター等の抜本的改革を含む経営健全化のための方針を定めるものである。

1 作成年月日及び担当部署

作成年月日 令和 8 年 7 月 31 日

作成担当部署 総務課

2 第三セクター等の概要

法 人 名 有限会社 秋葉路

代 表 者 名 大坪 弘之

所 在 地 大鹿村大字大河原 390

設立年月日 平成 4 年 4 月

資 本 金 10,000,000 円 【当該地方公共団体の出資額（出資割合）4,950,000 円（49.5%）】

業 務 内 容 小売業(道の駅)

3 経営状況、財政的なリスクの現状及びこれまでの地方公共団体の関与

当道の駅は、農産物展示販売施設だったものを 2018 年 8 月にリニューアルした施設で、大鹿村まち・ひと・しごと創生総合戦略における拠点施設である。当道の駅は第 3 セクターの会社であり、村が 49.5%の株式を保有し、当施設を運営している。開業以来、慢性的な赤字傾向にあり、また人材確保が恒常的な課題となっている。

国道 152 号が災害で寸断していることで、大鹿村から他地域へ抜けることが出来ず、行き止まりとなっている。さらに松川町からの県道 59 号小渋線がリニア工事のトラックの走行で走りにくいこともあり、観光客が減少している。代わりにリニア工事関係者の需要が現在の売上を支えているものの、厳しい経営環境にある。

4 抜本的改革を含む経営健全化の取組に係る検討

営業赤字が続いており、債務超過額が増加している。立地環境等の外部要因に依存するのではなく、現有資産を最大限に活用し、自律的な経営改善を図ることが不可欠である。いかに強みを生かして現有資産を活用し客単価を上げるか、行政との密な連携が重要である。リニア工事関係者の需要の取り込みと目的地としての道の駅の魅力の強化を基本的な改善の方向性とする。

5 抜本的改革を含む経営健全化のための具体的な対応

(1) 客単価を上げるために品揃えの見直し、価格設定、売場改善。

【売店エリア】

①品揃えの見直しと、地元で開発された特産品の強化

②売り場レイアウトの改善

【食堂エリア】

①商品単価アップとセット商品の充実

②リニア工事関係者向けお弁当、お惣菜の強化

(2) 資金繰りの確保

営業赤字が続いており、累積債務が増加しているため、資金繰りが厳しい状況にある。

行政から電気代1/3、トイレ掃除費用などの補填は受けているが、赤字に陥っている。

資金繰り表を作成し、改善策を立案し、金融機関からの協力を得る。

(3) 官民連携の中期ロードマップの作成

有限会社 秋葉路がある道の駅は、大鹿村まち・ひと・しごと創生総合戦略に位置付けられており、日常生活に必要なサービス提供、防災機能、農業の6次産業化、観光交流等地域経済の活性化を図る拠点施設である。売店・食堂エリア改善による「道の駅自体が目的地」となるには、施設単体での改善策に加え、行政と連携した改善を行う必要がある。

6 法人の財務状況

財務状況としては、コロナ禍に比べれば若干改善したものの、粗利益は減少傾向にあり、営業赤字が続いている。商品仕入高は増加しており、販管費は人件費と水道光熱費で大部分を占め、横ばい状態である。人件費をまかなえるだけの売上高になっていないが、サービス内容に対して人員が不足しており、今後人員を増員するのであれば、さらなる売上高の拡大が必要となる。

貸借対照表から	項 目	金額 (千円)	
		令和5年度	令和6年度
	資産総額	20,467	20,890
	(うち現預金)	9,025	9,544
	(うち売上債権)	2,259	3,522
	(うち棚卸資産)	6,236	5,376
	負債総額	23,422	25,726
	(うち当該公共団体からの借入金)	18,141	21,035
	純資産総額	△2,956	△4,836

損益計算書から	項 目	金額 (千円)	
		令和5年度	令和6年度
	経常収益	89,269	95,937
	経常費用	88,965	97,747
	経常損益	304	△1,810
	経常外損益	0	0
	当期純損益	233	△1,880